

Title	編集後記
Sub Title	
Author	中野, 祐子(Nakano, Yuko)
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2014
Jtitle	新版 窮理図解 No.16 (2014. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000016-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「型」がわかれば恐くない

みなさんは人前でアドリブの挨拶をしたり、アドリブのスピーチをしたりすることが苦手ですか、それともあまり苦になりませんか。

この号で研究生生活の様子を紹介して下さった渡邊准教授は、アドリブのスピーチ、とくに人前での原稿のないスピーチは苦手だそうです。しかし、「学会発表は得意です」といわれます。それは、学会発表には「型」があり、それがわかっているのだから、その型に合わせて原稿を準備し何回も繰り返して十分に練習することができるからだそうです。

一般に、さまざまな研究に必要な「新しい発想」は、ゼロの状態から生まれて

くることはありません。必ず先人が積み重ねてきた英知の上に、新しい研究成果を付け加えることで生まれてきます。したがって、「新しい発想」を生み出すには、先人の努力や苦勞の足跡を学ぶことがいちばんの近道です。「私が過去の人物伝のような書物が好きなのは、先人たちがどんな苦勞をして革命的な新しい発想を生み出してきたのかを勉強できるからです」と渡邊さんはよく話されます。

「現在の学生さんはみんな優秀で、こうした『新しい発想』を生み出す基礎学力は身につけています。そのため私は、研究室の学生さんには、物理学の知識を教えるよりは、研究の『型』を伝えて、一緒に勉強させてもらう時間のほうが長いように感じています」と渡邊さんはいいます。

研究の「型」としては、「新しい発想」を生み出すための、①情報収集のやり方、②実験データのとり方、③学会発表のやり方、④論文の書き方などがあります。「これは学生さんの倍ほど長く生きてきて、いろいろな経験をしてきた私だからこそ伝えることができるものです」と渡邊さんは学生指導の一端を明かしてくださいました。

このような「型」を身につければ、旺盛な学習意欲と豊富な知識をもつ学生は、いろいろな新しい情報を集め、それを「新しい発想」にもつなげていくようになるそうです。そうした学生との研究活動について、渡邊さんは「意欲的な若い人たちと一緒に研究できるのは、非常に楽しいことです」とうれしそうに話っていました。

理工学 Information

KEIO TECHNO-MALL 2014 第15回 慶應科学技術展「育てる産学、育つ夢」

毎年12月に東京フォーラムで開催している KEIO TECHNO-MALL (慶應科学技術展) は、慶應義塾大学理工学部・理工学研究科の研究成果を広く発信し、共同研究や技術移転など、産官学連携のきっかけとなる出会いの場を提供するイベントです。

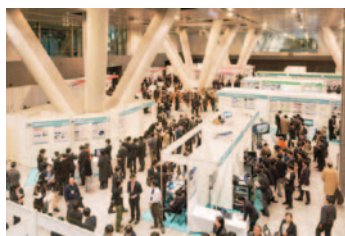
出展ブースでは、教員のほか、各研究室の学生が実物展示やデモンストレーションを通じて、来場者に研究成果のプレゼンテーションを行っています。毎年、企業や官公庁、他大学などから、多数ご来場いただいています。

日時：12月5日(金) 10:00～18:00

場所：東京国際フォーラム地下2階(展示ホール2)

内容：実物・実演重視の展示と魅力的な企画を予定

入場無料 ※事前登録が必要です。



©慶應義塾大学



編集後記

第10号から、何かを手に持った写真を表紙にしていますが、渡邊准教授が用意された赤い棒(簡易波動実験器)はとてもインパクトがあり、説明を受けるまで何をするものかわかりませんでした。写っているのはごく一部分ですが、実際はもっと大きく大きなものです。表紙は合成ではなく、人が端を持ち微妙な波を作り出して何枚も苦勞して撮影したうちの1枚です。

事前に取材メモをたくさん用意していただき、取材では言葉を慎重に選んで穏やかに話され、学生さんの多くが先生の人柄にひかれて研究室に入ったと話すように、印象どおりの真面目で優しい先生でした。(中野祐子)

今号の表紙

赤い棒で構成された器械は「簡易波動実験器」で、横波が伝わる様子を観察するために用いるものです。目に見えないテラヘルツ光の電場波形を再現するために表紙に採用しました。

新版 窮理図解

No.16 2014 July

編集 新版窮理図解編集委員会
写真 邑口京一郎
デザイン 八十島博明、石川幸彦 (GRID)
編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
発行者 青山藤詞郎
発行 慶應義塾大学理工学部
〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
問い合わせ先 (新版窮理図解全般)
kyurizukai@info.keio.ac.jp
問い合わせ先 (産学連携)
kll-liaison@adst.keio.ac.jp

web版 http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai
twitter http://twitter.com/keiokuryu
facebook http://www.facebook.com/keiokuryu

